

第99回 品質管理シンポジウム

バリューチェーンと組織の改革による持続的成長 ～ 経営資源の価値化と企業活動の構造 ～

特別講演

「繁栄と持続性のための
科学技術」



吉川 弘之氏

(独) 科学技術振興機構
研究開発戦略センター長

基調講演

「バリューチェーンと
組織の改革による
持続的成長」



宮村 鐵夫氏

中央大学 理工学部
経営システム工学科 教授
※99QCS 主担当組織委員

講演1

「ものづくりの寓話」



和田 一夫氏

東海学園大学
経営学部 教授

講演2

「SKYACTIVと
マツダ モノ造り革新」



金井 誠太氏

マツダ(株)
代表取締役 会長

講演3

「Panasonicの成長戦略と
モノづくり・品質の取り組み」



稲垣 道世氏

パナソニック(株)
モノづくり本部 副本部長

講演4

「事業の拡大と
人財のグローバル化」



木川 理二郎氏

日立建機(株)
相談役

日時 2014年12月4日(木)～6日(土)

会場 箱根ホテル小涌園

主催 一般財団法人 日本科学技術連盟

後援 一般社団法人 日本品質管理学会

第99回 品質管理シンポジウム 講演概要

12/4(木) 特別講演

「繁栄と持続性のための科学技術」

吉川 弘之氏 (独) 科学技術振興機構 研究開発戦略センター長

世界的に金融経済も国際関係も見通せない時代であるが、その中で確実なことがある。その一つは、50年後、わが国が100億人の中の1億人になることであり、しかも高度成長と言われたころは、1億人の日本人の競争相手は欧米の5億人ぐらいであったが、今はその10倍以上を相手にすることになり、その傾向はますます強くなる。その中で日本が生きてゆく新しい道は何か。増大する未知の市場を前にして、私たちは深く考えてその道を探すべきでない。そのための条件は、追従でなく独自の基礎研究と産学連携、国内の構造的な協力体制、世界の社会的期待の発見、などを通じて世界の持続的発展を先導することである。



12/5(金) 基調講演

「バリューチェーンと組織の改革による持続的成長」

宮村 鐵夫氏 中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授 ※99QCS主担当組織委員

グローバル化はもちろん、昨今、プロダクト・ライフサイクルにおける上・下流への垂直統合、デザイン・ルールの共有化による革新的な開発プロセスなど、ビジネスモデルの変化が急速に進み、また、これらの環境変化に対応できる組織改革など経営のスピード、トップのリーダーシップが一層求められる時代になってきております。そこで、第99回品質管理シンポジウムでは「バリューチェーンと組織の改革による持続的な成長」の視点から、それぞれの企業における改革・持続成長への取り組み、組織の基盤をなす人財が育つ環境の構築、これらの中で品質管理の果たすべき役割などについて、基調講演を通じて紹介いたします。

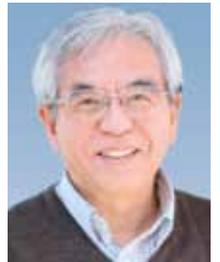


12/5(金) 講演 1

「ものづくりの寓話」

和田 一夫氏 東海学園大学 経営学部 教授

よく考えてみれば「ものづくり」という用語は実に曖昧な言葉です。ややもすると、精神的なことを重視しがちな議論になりがちです。しかし、ここで考えてみたいのは、現代の工業製品が安価に効率的に提供されるようになった互換性部品を使う製造方法です。この革新をなしとげたのはフォードの自動車製造です。こう書くと「ああ、コンベヤーを使ったから労働時間が下がったという話だ」と考える人が多いと思います。高校の教科書にも、有名な辞書にも書かれています。しかし現場に行くと「部分最適化ではなく、全体最適化を」と言うではありませんか。フォードは例外なのでしょうか？あるいは今、現場で指導されている方の方法は過去には適用できないというのでしょうか？過去の事例をあえて使い、ほとんどの人が「真実」だと考えていることが本当に「真実」なのか考えてみようと思います。この回り道が、現代の現場を見る目の鍛錬にも役に立つとすれば幸いです。



12/5(金) 講演 2

「SKYACTIVとマツダ モノ造り革新」

金井 誠太氏 マツダ(株) 代表取締役 会長

2012年発売のCX-5から始まったマツダの新世代商品群は、エンジン、駆動系、車体、足回りの全ての基幹ユニットに「SKYACTIV TECHNOLOGY」を展開し、外観には「魂動デザイン」を採用して、世界的に成功を収めてきています。環境・安全技術の高度化や新興国の追い上げなど、ますます厳しさを増す自動車産業の中で、比較的規模の小さいマツダが生き残っていくために選択した方法論(考え方)と、それを踏まえた開発の取り組みを、「SKYACTIV TECHNOLOGY」と「マツダモノ造り革新」を中心に、事例を交えながら紹介いたします。



12/5(金) 講演 3

「Panasonicの成長戦略とモノづくり・品質の取り組み」

稲垣 道世氏 パナソニック(株) モノづくり本部 副本部長

お客様一人ひとりの「A Better Life, A Better World」の実現をめざし、事業部制の復活、お客様や社会との接点強化等、全ての従業員がお客様にしっかり向き合うために経営の前線化を推進中です。モノづくり・品質においては、事業の成長と質的転換および社会環境の変化に伴い、技術・システムのイノベーションと持続的改善に加え、海外地域のモノづくり、インフラへの対応、地球環境保護への対応、製品セキュリティへの対応等が求められており、弊社の原点である『お客様第一』の下、一人ひとりのお客様、それぞれの地域・社会にとって最適なモノづくり・品質基盤の構築の取り組みについて紹介いたします。



12/5(金) 講演 4

「事業の拡大と人財のグローバル化」

木川 理二郎氏 日立建機(株) 相談役

建設機械・鉱山機械は、新興国を中心とした社会インフラ構築、災害復旧工事および資源開発現場などにおいて世界中のお客様や地域社会の発展に貢献しています。建設機械は、生産財として機械の信頼性・耐久性を大前提に、多様なニーズや環境規制への対応等のハードの付加価値向上に加え、世界中のお客様満足を高めるためにはグローバルな調達生産体制やライフサイクルサポート体制が不可欠です。中期経営計画を通じた事業の拡大、人財のグローバル化による多様な人財マネジメントを進め、持続的な成長に向けたグローバルな経営基盤について討論します。



品質管理シンポジウム賛助会員入会のご案内

当財団は、創立以来その社会的使命に鑑み主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目を浴びるまでに成長いたしました。

今日のように激変する経営環境の中で、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されるとともに、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためには関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催しておりますのは、この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。是非、本シンポジウム賛助会員にご入会いただきますようご案内申し上げます。

過去の主な講演者（組織名・役職は講演当時の表記になっております）



第98回
株式会社常務マネジメントリサーチ
代表取締役
佐々木 常夫氏



第97回
(株)ブリヂストン 相談役
荒川 詔四氏



第96回
(株)ローランドベルガー 日本法人会長
遠藤 功氏



第85回・第95回
サムスン電子 常任顧問
Y. W. Lee 氏



第94回
東京都市大学 教授
涌井 史郎氏



第93回
一橋大学大学院 教授
一條 和生氏



第92回
中村ブレイス 社長
中村 俊郎氏



第91回
良品計画 会長
松井 忠三氏



第89回
新日本製鐵 代表取締役会長
三村 明夫氏



第89回
日本マクナルド 会長兼社長兼CEO
原田 泳幸氏



第88回
小松製作所 代表取締役会長
坂根 正弘氏



第87回
花王 前会長
後藤 卓也氏



第86回
経済同友会 代表幹事
桜井 正光氏



第83回
経団連 名誉会長
奥田 碩氏

品質管理シンポジウム 賛助会員会社（日科技連賛助会員とは異なります）※2014年9月1日現在

- | | | | | |
|---------------------|------------------------|---------------------|--------------------|------------------|
| 1 (株)アイ・アム&インターワークス | 15 (株)小松製作所 | 29 (株)セキソー | 43 トヨタホーム(株) | 58 フジミ工研(株) |
| 2 アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 16 澤藤電機(株) | 30 ダイキン工業(株) | 44 長津工業(株) | 59 ペンてる(株) |
| 3 アイシン精機(株) | 17 サンデン(株) | 31 ダイヤモンド電機(株) | 45 新潟ダイヤモンド電子(株) | 60 (株)保志 |
| 4 愛知製鋼(株) | 18 サンデンシステムエンジニアリング(株) | 32 (株)竹中工務店 | 46 日華化学(株) | 61 前田建設工業(株) |
| 5 (株)アドヴィックス | 19 サンデン物流(株) | 33 (株)千代田グラビヤ | 47 (株)日科技連出版社 | 62 (株)前田製作所 |
| 6 (株)IHI | 20 サンワテック(株) | 34 (株)T T M | 48 日産自動車(株) | 63 三島食品(株) |
| 7 (株)MCシステムズ | 21 (株)GSユアサ | 35 (株)デンソー | 49 日産車体(株) | 64 (株)村田製作所 |
| 8 オージー技研(株) | 22 (株)ジーシー | 36 東海ゴム工業(株) | 50 日本電気(株) | 65 (株)メイドー |
| 9 大塚化学(株) | 23 (株)ジーシーデンタルプロダクツ | 37 (株)東京ビジネスリ्यूション | 51 (株)日本科学技術研修所 | 66 名北工業(株) |
| 10 オムロン(株) | 24 (株)ジェイテクト | 38 東レ(株) | 52 パナソニック(株) | 67 (株)安川電機 |
| 11 鹿島建設(株) | 25 清水建設(株) | 39 トクラス(株) | 53 パナソニック ヘルスケア(株) | 68 (株)ユニバンス |
| 12 関西電力(株) | 26 シャープ(株) | 40 トヨタ自動車(株) | 54 (株)羽生田製作所 | 69 (株)リコー |
| 13 コーセル(株) | 27 JUKI(株) | 41 トヨタ自動車東日本(株) | 55 日野自動車(株) | 70 リコーエレメックス(株) |
| 14 コニカミノルタ(株) | 28 積水化学工業(株) | 42 (株)豊田自動織機 | 56 富士ゼロックス(株) | 71 リコーテクノロジーズ(株) |
| | | | 57 富士電機(株) | 72 (株)良品計画 |

品質管理シンポジウム 賛助会員特典・入会費用

- 特典 1** 品質経営（革新）のための次代の指針と最新情報が入手できます。
- 特典 2** 参加企業各社の品質に関する最新情報が入手できます。
- 特典 3** 本シンポジウムに毎回1名様が無料で参加でき、2名様以降は特別価格でご参加いただけます。
- 特典 4** 本シンポジウム、発表報文集・実施報告が無料で入手できます。
- 特典 5** 小田原駅から会場（箱根ホテル小涌園）まで会員限定の無料送迎サービスをご利用いただけます。
- 特典 6** 一部の講演を会員専用ページから視聴いただけます。（講演者の許可を得た映像に限りませんので不定期です）

入会費用 1口につき年額187,920円（消費税含む）

上記入会金をお支払いいただきますと 1名様参加枠（無料）を確保できます。
2名様から特別価格（43,200円）でご参加いただけます。

問い合わせ／入会申込み

E-mailまたはお電話にてご連絡いただければ、品質管理シンポジウム賛助会員申込書をお送りさせていただきます。

一般財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当（安随／清田）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL：03-5378-1213 FAX：03-5378-9842 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

趣旨



宮村 鐵夫 氏
中央大学 理工学部
経営システム工学科 教授
第99回品質管理シンポジウム
担当組織委員

バリューチェーンの前工程での取引改革による小売業の事業拡大、一方、販売後のサービスへ進出することで顧客との関係を強化する「ものづくりを超えた事業拡大」もみられる。また、「戦略的なデザインルール」を基盤とする開発コンセプトを基盤として、ライフサイクルを見据えた共通化やモジュール化などの戦略が大きな潮流となっている産業も見られる。

共通するところは、「誰に何を売なのか」事業立地の考えから取引のあり方を再定義し組織改革を進めるリーダーシップの発揮と実践である。より具体的には、「プロダクト・ライフサイクル」と「事業分野」の二元的観点から企業活動とこれを担う組織のあり方を改革し、顧客価値を高めるバリューチェーンを革新することで持続的成長を実現する経営である。

プロダクト・ライフサイクルでは、需要に応じ柔軟に対応できる調達・生産など企画からサービス・廃棄までのライフサイクルを通じた社内外の多様な活動の統合による経営資源の価値化が要点となる。改善・標準化などによる組織資産の蓄積に加えて、変化を引き起こすダイナミックな組織能力、特にリーダーシップとこれに続くマネジメントのフォローアップへ俯瞰的視野で多面的に思考できる人材の

育成と部門間の連携が鍵となる。ライフサイクルで局所的に生じている変化に気づき、組織を動かし社内外の経営資源を価値化するリーダーの対話力と実践力が問われる。

- 事業拡大では、3つの事業分野、
- ・方針を明確にした（顧客）市場・製品の競争戦略
 - ・上流あるいは下流への垂直統合の拡大
 - ・輸出・現地化等による地理的拡大

への着眼が要となる。方針の浸透へ組織改革を進め、情報の価値化へ経営資源の備えと「使う・意匠・コンセプト」の顧客との接点を重視した活動を推進する。垂直統合では技術力やインフラストラクチャ、地理的な拡大では人材や供給体制・販売拠点が制約になることが多い。制約を乗り越えて顧客ニーズへ対応するには、リーダーシップによるコーディネーションとモチベーションの進め方が鍵になる。

第99回品質管理シンポジウムでは、構造変化が急速に進む中で「バリューチェーンと組織の改革による持続的な成長」の視点から、それぞれの企業における改革への取り組み、人材が育つ環境、この中で品質管理の果たすべき役割などについて、講演とグループ・総合討論を通して認識を深めて、今後の礎としていきたい。

本シンポジウムの特長

- ① 今後の日本の品質管理の指針を示します。
- ② 質疑応答の時間を設け、日本を代表するゲストスピーカーから深掘した話を聞くことができます。
- ③ 「談話室」「グループ討論」「立食パーティー」など参加者が交流できる場を数多くご用意しています。

プログラム		開催期日：2014年12月4日(木)～6日(土)	
		会場：箱根ホテル小涌園	
月日	時間	科目	講演者
12/4 (木)	19:30~20:40	<特別講演> 「 繁栄と持続性のための科学技術 」	吉川 弘之 氏 (独) 科学技術振興機構 研究開発戦略センター長
	20:40~21:00	質疑・応答	
	21:00~22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00~23:00	談話室(参加自由)	
	8:30~8:40	主催者挨拶	(一財)日本科学技術連盟 役員
12/5 (金)	8:40~9:20	<基調講演> 「 バリューチェーンと組織の改革による持続的成長 」	宮村 鐵夫 氏 中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授 ※99QCS 担当組織委員
	9:20~10:30	<講演1> 「 ものづくりの寓話 」	和田 一夫 氏 東海学園大学 経営学部 教授
	10:30~10:40	質疑・応答	
	10:40~11:00	休憩	
	11:00~12:10	<講演2> 「 SKYACTIVとマツダモノ造り革新 」	金井 誠太 氏 マツダ(株) 代表取締役 会長
	12:10~12:20	質疑・応答	
	12:20~13:10	昼食・休憩	
	13:10~14:20	<講演3> 「 Panasonicの成長戦略とモノづくり・品質の取り組み 」	稲垣 道世 氏 パナソニック(株) モノづくり本部 副本部長
	14:20~14:30	質疑・応答	
	14:30~15:40	<講演4> 「 事業の拡大と人材のグローバル化 」	木川 理二郎 氏 日立建機(株) 相談役
	15:40~15:50	質疑・応答	
	15:50~16:00	グループ討論の主旨説明	宮村 鐵夫 氏 中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授
12/6 (土)	16:00~17:50	グループ討論(1)	
	18:00~19:00	夕食(立食)	
	19:10~21:00	グループ討論(2)	
	21:00~23:00	談話室(参加自由)	
	8:30~9:45	グループ討論報告(10分×6班※予備15分)	司会：宮村 鐵夫 中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授 報告：各班リーダー
	9:45~10:00	休憩	
	10:00~11:30	総合討論	
11:30~11:40	第99回 品質管理シンポジウム まとめ	宮村 鐵夫 氏	
11:40~11:50	次回(100回)品質管理シンポジウム案内	佐々木 眞一 氏 日科技連 理事長 (トヨタ自動車(株) 相談役・技監) ※100QCS 担当組織委員	
11:50~	昼食・解散		

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略) ※◎は第99回品質管理シンポジウム担当組織委員



◎**丸川 隆夫**
東京工業大学 教授



佐々木 眞一
日科技連 理事長
トヨタ自動車(株) 相談役・技監



鈴木 和幸
電気通信大学 教授



田中 千秋
東レパテリールーネータフィルム(株)
相談役



中尾 眞
(株)ジーシー 取締役会長



◎**宮村 鐵夫**
中央大学 教授

グループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班

「革新を引き起こすリーダーの攻略とは」

■リーダー：久保田 洋志 (広島工業大学名誉教授) ■世話人：向井 正人 (本田技研工業(株) 二輪事業本部 品質保証部 部長)

趣旨 環境変化に適応して、顧客起点で差別化した高付加価値の競争優位な製品・サービスを提供するために、価値連鎖構造を再構成・革新することは経営の重要課題である。ICTなどの技術的進歩を背景としたビジネスモデルの登場、海外拠点の企業と市場、規制改革と通商ルール再構築など、グローバルビジネスの前提が変化する経営環境下で、価値付与に着目したバリューチェーンの革新を引き起こすリーダーのビジョンと戦略などについて討論したい。

論点

- ① バリューチェーン革新が必要となる経営環境の認識・問題意識と危機感
- ② 信頼感、人心の統合、長期的視点と辛抱強さ、変革抵抗への善処など、革新を主導するリーダーシップの要件
- ③ ビジョンと方向付け、範囲の定義、顧客起点の戦略とモノづくり革新、グローバルシフトなど、革新を引き起こすリーダーの攻略

第2班

「イキイキと働くことにつながる目的・ビジョンの共有と秘訣」

■リーダー：荒木 孝治 (関西大学 商学部 教授) ■世話人：荒井 弘司 (㈱アーレスティ 品質保証本部 執行役員)

趣旨 戦略実行の成功要因は、組織リーダーの動き、職場のスキル獲得の工夫、実行のマネジメントの3点にある。組織リーダーの動きでは、情緒的な利用により動かないといった実行力不全を招かないために、新たな戦略や計画が「何故必要か」「どこを目指すのか」を組織メンバーに理解・納得してもらうことが重要となる。そのとき、組織リーダーが持つ対話とコミュニケーション能力が問われる。第2班では、ビジョン・戦略の浸透・共有におけるリーダーシップのあり方、および、ビジョンの共有によって組織メンバーがイキイキと働くことにつながる秘訣について議論する。

論点

- ① 月曜日、行くのが楽しみな会社になるための、ビジョン・リーダーシップの役割は何か。
- ② ビジョンが単なるお飾りやお題目にならないためには、どうすればよいか。
- ③ マルチカルチュラル組織における目的・ビジョンの共有の意味、および、秘訣は何か。

第3班

「改革・改善におけるシステムズ・アプローチ」

■リーダー：松田 啓寿 ((一財)日本科学技術連盟 嘱託) ■世話人：藤本 高宏 (㈱デンソー 品質管理部 TQM推進室 室長)

趣旨 バリューチェーンを構成する価値創造活動を分析し、ボトルネックに着眼して、プロセスの相互依存性等システムの視点からバリューチェーンを見直せば、実情に即して物事を進めることができより高い顧客価値の創造が可能と成り得る。第3班では、持続的成長を実現するための、バリューチェーンの改革・改善の実効的な方法論と進め方について議論する。

論点

- ① バリューチェーンを見直し価値創造に成功した事例におけるボトルネックと、組織全体へ波及させる改革のポイントは何か
- ② バリューチェーンの改革・改善において、やるべきこと(やってはいけないこと)は何か
- ③ 持続的成長のための改革・改善の手順化と実効化についての提言

第4班

「局所的な変化の大きな変化・成果への価値化」

■リーダー：太田 雅晴 (大阪市立大学 大学院経営学研究所 教授) ■世話人：北廣 和雄 (積水化学工業(株) 生産力革新センター シニアコンサルタント)

趣旨 現場・現物・現実の局所的な変化に気づき、タイミングを逸さないでいかに価値化を図るかが現代の大きな課題である。それらから誘導されるビジョン、組織改革と組織間連携による取り組み、リーダー育成、オープンな職場環境、人材が育つ環境、技術開発、事業評価などのあるべき姿や具体的な指針などについて、参加者の経験を持ち寄って討論したい。

論点

- ① 有効な局所の変化を察知するにはどのような人材が求められるか
- ② 局所の変化を周辺領域・組織を巻き込んで価値化するプロセスとは
- ③ 局所の変化を取り入れてビジネスモデルの革新に結び付ける組織とは

第5班

「需要構造の変化に対応できる組織能力」

■リーダー：奥原 正夫 (諏訪東京理科大学 経営情報学部 教授) ■世話人：中川 昌之 (㈱ジーシー 経営企画部 部長)

趣旨 需要構造の変化に気づき、変化に対応して企業が選び取った事業領域や事業戦略を企業の利益や企業価値に結びつけるためには、一人ひとりの力に加えて組織能力が重要である。需要構造の変化に対応できバリューチェーンを革新する人と組織のあり方を、リーダーの育成、TEI (Total Employee Involvement)、チームによる問題解決、標準化などの視点から必要とされる組織能力の明確化、組織能力の醸成と活用についての方法論について討論したい。

論点

- ① 需要構造の変化に気づきこれに対応するバリューチェーンへ革新できる人と組織に必要な力は何か
- ② 需要構造の変化に対応できる組織能力の獲得と進化に必要な方法は何か
- ③ バリューチェーンの革新へ具体的に行動する人とチームに必要な力は何か

第6班

「ソリューションビジネスを担える開発の進め方」

■リーダー：山田 秀 (筑波大学 大学院 ビジネス科学研究科 教授) ■世話人：佐藤 義和 (富士ゼロックス(株) CS品質本部 CS品質本部長 執行役員)

趣旨 今現在、市場に提供している商品はコモディティ化が進み、差別化が難しくなりコスト競争へと進んでいる。このような中で顧客の要求・要望は多様化し、また商品提供後のサービスにおいても非常に高い期待がある。そこで、6班ではお客様の期待に応えていくにあたってのソリューション提供によるビジネス拡大に向けた、マーケティング、開発、生産、さらにはお客様との接点活動について、皆様の課題や取り組みについて討論を行いたい。

論点

- ① 顧客との接点を重視した仕事の進め方の要点
- ② ライフサイクルを見通した開発の進め方
- ③ ソリューションビジネスを担える人材の開発、育成

参加要領

開催日時

2014年12月4日(木) 19:30~12月6日(土) 12:00
(12月4日受付開始17:00~, 夕食18:00~)

会場

箱根ホテル小涌園「コンベンションパレス・蓬莱の間」
〒250-0407 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平
TEL. 0460-82-4111 FAX. 0460-82-4137

参加対象

企業の役員, 上級管理職の方々

参加費

- 一般
108,000円/1名(消費税込み)
 - 本シンポジウム賛助会員会社
1名無料, 2名目から43,200円/1名(消費税込み)
- ※食事代(12月4日夕, 12月5日3食, 12月6日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚, 宿泊費, 交通費はご負担ください。

バス送迎サービス

JR小田原駅をご利用頂く参加者の方は開催地までのバス送迎サービス(時間帯限定)を致します。

①集合場所:

小田原駅 西口 改札口付近
12月4日(木) 16:50発車→17:30 ホテル到着
ホテル小涌園 駐車場付近
12月6日(土) 12:20発車→13:00 小田原駅到着

※バス会社のバスガイドが案内板を持ってお待ちしております。
※発車の30分前にバスは到着致します。

②定員: 53名(乗車)

※先着順になりますので, 定員を越えてしまった場合は, 誠に恐れ入りますが, 各交通機関をご利用頂きますようお願い致します。

③その他:

バス送迎サービスをご利用しない場合は, 公共交通機関のバスをご利用ください。

申込方法・問い合わせ先

第1次〆切を10月17日(金)とさせていただきます。

一般財団法人 日本科学技術連盟 教育推進部 第一課

品質管理シンポジウム担当

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL:03-5378-1213
FAX: 03-5378-9842 E-mail: tqmsemi@juse.or.jp

申込方法

下記の申込フォームから必要事項を入力し, お申し込みください。
以下のフォームで参加者**5名まで**申し込むことが可能です。

<https://fofa.jp/juse/a.p/144/>

申込画面フロー

連絡担当者
入力画面



参加者1
入力画面



参加者5
入力画面



確認画面



登録完了画面

※

※この間に参加者2, 参加者3, 参加者4の入力画面があります。

ご入力時の注意事項: メールアドレスや電話番号などの英数字を入力の際は, 必ず半角で入力してください(全角でも入力することができてしまいますので十分ご注意ください)。

1 連絡担当者入力画面【全て必須項目】

お申込受付後「関係資料」をお送りする方の情報を入力します。
参加人数(シンポジウム賛助会員)と参加人数(一般)の欄には, 実際の参加人数(数値のみ)を入力してください。
※シンポジウム賛助会員会社の場合は, 参加人数(一般)の欄には0(ゼロ)を入力してください。

2 参加者1の入力画面【全て必須項目】

参加者情報(1画面1名分)を入力します。

3 参加者2~5の入力画面【任意項目】

参加者が2名以上いる場合は, 全て必須です。

参加者が2名以上いる場合はこの画面以降入力してください。参加者が1名の場合は, 何も入力せずに, 確認画面までお進みください。
参加者2~5の入力画面では入力項目の必須チェックを行っておりませんので, 2名以上を入力する場合は, 入力漏れがないようにご注意ください。